

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 9 月 4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472500887		
法人名	医療法人好縁会		
事業所名	グループホームふれあい西条		
所在地	広島県東広島市西条町寺家7429 (電話) 082-424-8801		
自己評価作成日	平成30年8月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3472500887-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年8月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>医療法人好縁会全体で取り組んでいる生活づくり10か条に基づき介護を行う。 入居者様のADLの変化に応じて研修専門部署である教育研修部と連携し、介助方法の見直しや新しい介護用品の導入を行い、入居者様、職員双方に負担の少ない介助方法を取り入れている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>法人の介護理念である「生活づくり10か条」に基づいたケアの実践と、経営理念や事業計画にて目標をしっかりと掲げ、「チャレンジシート」という法人独自の様式にて、職員其々が自身の目標に具体的にどうするかの実行手段を明確化し、達成に向けての取り組み、評価を行っている。意欲の向上を図ることにも有効となっている。HLC（ハッピー・ライフ・クリエイター）や行事など担当を決め計画、実践し利用者の生活が豊かになる取り組みを展開されている。法人母体のクリニックが隣接しており、24時間の連携により安心して医療を受けれる体制がある。法人内での研修体系も確立し充実している。年1回「マイスター試験」があり、職員の学ぶ意識やスキルアップに繋がっている。管理者は常に現場を配慮し、接遇やプライバシーなども適宜修正が図られている。職員からも話しやすく意見も上げやすい風通しの良い職場風土が構築されている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念に則り事業所の目標を立て、それに準じた目標を個別に計画する用紙を作成（チャレンジシート）している。	法人理念を朝の申し送りで唱和することの他、事務所に掲示し確認に努めている。チャレンジシートという法人独自の様式にて事業所の目標、個人の目標を具体的にどうするかなど、実行手段も明確化し目標達成に向けて取り組んでいる。年2回面談にて見直し、評価を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は近隣への散歩の際に挨拶など地域の方と交流の機会があったが、最近では散歩の頻度、距離が減り交流の機会が減っている。	ボランティアで地域の方から歌を披露してもらうことや、定期的な傾聴ボランティアの訪問があり、そこからフラダンスサークルでの演芸の披露の話になったりと、地域や団体との交流を行っている。近隣に開設した法人の保育所との世代間交流も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	相談に来られた方について、認知症の理解や支援方法等をアドバイスしている。入居者のご家族にも外出・外泊の際は介助方法をアドバイスさせていただき、ご家族との交流を増やせるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	報告内容については、毎回報告書を作成しそれを基に話をしている。昨年度はご家族代表からの要望で担当職員からご家族への手紙（入居者様の様子等を記入）を再開した。	長年地域代表として近所で住まいの方の参加があるなど、各関係者にて定期的に開催されており、事業所の活動報告や地域の話、様子を聞いたり意見交換を行っている。会議内の声から敬老会に地域の大学の大道芸サークルを呼ぶことになった経緯がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議のメンバーとして参加していただき、ケアサービスの実際を伝えている。また、市からの専門的なアドバイスも取り入れる事で市の要望からも外れないサービスを提供できるよう取り組んでいる。	運営推進会議を含め、行政から書類様式のアドバイスを受け改善につながったりと、市との継続的な関係づくりに努めている。他のグループホームとの交流の誘いも受けていたが、事業所の建物修繕工事時期と重なり見送ったことが残念だったという経緯があり、今後も他の事業所との交流に意欲を持っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>内外の研修を通して、身体拘束に対する理解を高めている。また、昼夜間での安全目的以外での施錠は行っておらず、玄関も開放している。</p>	<p>内外の研修を年2回以上開催しており、どこからが身体拘束になるのかなど、身体拘束の理解に努め、基準があいまいにならないように職員個人の言動や行動にも気を向け、アドバイスなどを行うことや、都度現場での気付きに声掛けし周知や理解の向上に取り組んでいる。委員会での議事録も周知に活用している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修会への参加や、実際に現場で不適切な場面を見かけた際は、都度注意を行い情報発信を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人内の研修に参加し制度の勉強、理解を行っている。その内容について議事録の回覧での周知を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に同意を得ており、その後も個人的な質問に随時対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>電話や面会時にご要望を受けた際には申し送り時や文書作成及び回覧にて周知し改善を行っている。</p>	<p>日々のケアから意向の確認を行っている。家族より、持参した布団をこのように使用してもらいたい、お菓子や食べ物持参もいつ食べて欲しいなど細かい希望にも丁寧に意向に添って行っている。プラン作成時には面会時や電話で意向を確認している。年1回の家族会を敬老会にて開催し、ほぼ全家族の参加がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り時や普段の会話内容から検討できる部分は検討を行い、再度職員の意見を取り入れつつ反映を行っている。	休憩スペースの整備を行うことや、職員からの要望で勤務時間での現場の実働的な状況を踏まえて時間修正を検討し勤務時間体系を修正した例もある。管理者が現場に出て業務することも多く、日々のケアや業務の中から話を聞くことも多くある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	チャレンジシートの導入にて個々の年間目標を定め、やりがいにつなげている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	今年度より介護部門のマニュアルの統合整備を行い、新入職員へ行う教育が全事業所で統一された。現在は実地で使用しながら精度を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者単位では系列施設との連絡会議や研修会などで情報交換、交流の機会を得ている。職員単位では自施設・他施設の人員不足時に職員の応援で相互にやり取りがある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	担当の職員を設定し日常生活に積極的に関わることで信頼関係を構築できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	電話や面会、手紙等を通して、できるだけ受け止める努力をしている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	センター方式を取り入れ対応している。		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	普段から掃除やテーブル拭きなど可能な範囲で手伝っていただき、出来る事はしていただけるよう援助を行っている。		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	衣替えや布団の入れ替え等、節目に応じた対応をご家族には依頼し、ご本人の生活の一端を支えていただく。また外出や一時帰宅の要望があった際は、ケア方法をアドバイスさせていただき共に過ごす時間の支援をさせていただいている。		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	馴染みの訪問歯科の活用等、ケースに応じて在宅時にも受けていたサービス・関係性を継続している。ご家族が面会に来やすいよう笑顔での対応を心掛けている。	なじみの訪問歯科を継続して利用ができる支援や、面会も自由に来ていただけるようにしており、お盆なども友人が訪れることもある。短時間でも家に帰りたい希望やお墓参りなども家族との協力にて実施できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しがちな利用者をリビングにお連れしたり、会話が可能な利用者様同士を隣席にしたりと、関係性構築と孤立防止に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特別の働きかけ、取組みは行っていない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向はもちろんのこと、自身の意思表示が難しい方については、生活歴や家族の意向を踏まえてニーズの把握を行っている。	日々の関わり、生活歴や過去に想像をめぐらすことで意向を掘り起こし、把握に努めるようにしている。家族との話で教えてもらうことも多い。外出の意向が多くあり、実践できるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や趣味をお聞きし、入居前の住環境に近づけるよう努めている。また、馴染みの家具などお持ちいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個別の生活記録を記入し状態把握と記録に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の意向を聞き取ったうえで現状のADLや普段の言動等も材料にし、計画作成担当者、作業療法士、介護職員等の話し合いを経て介護計画を作成している。</p>	<p>利用者の担当スタッフを決め細部の意向を確認し、計画作成者と共同にてアセスメント・プランの原案を作成している。医師からの聴取や隣接クリニックから作業療法士も参加するなど多職種を交え立案している。一時帰宅時にも流れをどうするかをプランに詳細を記載し実施したことで利用者の満足を高めた例もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>様子については個別記録に記入を行い、情報共有を行っている。それを基に介護計画や特にケア手順について適宜見直し、更新を行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>空床の場合、ショートスティとしての利用が可能。また災害時には避難場所としての開放用意がある。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>敬老会等の行事には、ボランティアの方に来ていただき催し物を行っていただいている。月に2回傾聴ボランティアの方にも来て頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>母体法人のクリニックと24時間連携している。他科受診の場合は往診に来ていただいたり、紹介状にて通院されている。可能なご家族には同行していただき、医師と直接のやり取りをしていただく。</p>	<p>母体法人のクリニックが隣接しており、随時の連携が図りやすく安心した医療が受けれる体制がある。入居時に意向を確認し、主治医を選定しているが協力医を選ばれる方が多い。整形や専門医の受診では以前からのなじみの病院を継続して家族との協力にて支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医療連携を行っており、週に一回母体法人の看護師が訪問し、状態を把握している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>面会の際に都度様子を伺い状態の把握を行っている。退院が近付くと、当法人所属の看護師と共に病院へ出向き、情報提供を受け介護計画に反映している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>医師、看護師、家族、職員でカンファレンスを持ち、説明、情報の共有、今後の方針等を話し合い、支援できるようにしている。</p>	<p>入居時に重度化した場合、看取りの指針を説明している。アンケートも実施し入居時の意向を確認している。看取りも希望に応じ行い、終末期に再度意向を確認し行う。看取りの研修も年1回実施し、状況に応じ医師や法人内研修部より研修をとり行うことも可能にしている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変や事故時には訪問看護師、管理者へ連絡するよう手順が定められている。応急手当や初期対応については医師、看護師より指示が出ている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>セコムの方の協力の元避難訓練を行っている。同敷地内の事業所が合同で行う事で災害時には全員で対処できるように準備をしている。</p>	<p>セコムと提携しており、訓練計画も共同で作成している。敷地内の法人事業所と合同にて避難訓練を消防も立ち合い実施している。災害別にも避難方法が確立している。7月の大雨災害時では実施はせずに済んだが避難者を受け入れる手はずも準備を整えていた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修の活用により個々の人格を尊重した言葉掛けや支援を行っているが職員によっては不十分。	ベッド上でのオムツ交換があった場合はカーテンを閉めるなど基本的なことを忠実に取り組むことを心掛けており、気になる部分は管理者が都度訂正したりし、職員にも落とし込み共有を図っている。申し送りや研修で確認をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	最後には自己決定ができるような言葉掛けを心掛けている。また、拒否される事に関しては強要せず、タイミングを変更して援助をさせていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者個々のペースに合わせるよう心掛けている。趣味活動や、掃除の援助等その方の興味のある事に対して配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節の変わり目など、必要に応じてご家族に衣類などの補充を依頼し、衣替えを行っている。頭髪に関しては理髪店の出張サービスを利用している。寝ぐせ、眼ヤニ等自身で整容が難しい方は援助を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事のテレビ鑑賞を行わないようにし、会話しながら食事を楽しんでいる。ミキサー食の方については元の食材が何であったか説明を行いながら食事介助を行っている。	3食宅配で調理しやすい形態を取り入れ、お汁は毎回作っている。利用者にはちらしずしを混ぜてもらったりとできる部分での手伝いにて残存機能を活かせる支援をしている。行事食や季節物なども意向を取り入れながら実施している。ホットプレートでおやつ作りも行い、見て雰囲気なども楽しめるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>噛むことが難しい方には、キザミ食やミキサー食の提供を行い、液体での水分摂取が難しい方については、増粘剤の使用やゼリーの活用などで対応を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、義歯洗浄、うがい、歯ブラシなどで口腔ケアを行っている。歯科との連携を行っているので、必要に応じて研修を受ける事の出来る体制ができている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>1人1人の排泄パターンを考え、トイレ誘導をしたり、入居者の出すサインを見逃さないように努力している。</p>	<p>個々の様子や仕草など、本人のサインを見逃さない様、誘導など支援している。それによりトイレでの排泄にもっていった例がある。トイレに特殊テーブルが設置され、姿勢の安定、移乗や衣服の上げ下げを自身で行いやすく、同様にポータブルトイレ使用にも置き型のつかまる手すりを使用し自立に繋げている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>ヨーグルト等の乳製品を積極的に取り入れ、提供を行っている。個別のケースに関しては、医師と相談の上、薬の処方がなされている方もいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日、時間は完全に自由とは言えないが、体調や気分によって順延する等対応を行っている。</p>	<p>1日2～3名の入浴である。順番なども決めておらず、本人のその時の気分や状態に合わせて日にちも変更したりと柔軟に行い、お湯の温度や入浴時間の長さも個人に合わせて行う幅を持たせたゆったりとした入浴の支援が行われている。季節に応じて柚子などを浮かべたりと楽しめる工夫もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>基本的に皆良く眠られており、一 部夜間も活動的な方もおられる が、床に就くことを強制はせず、 適宜案内する程度に留めている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬は施設側で管理をさせていただ き、処方の際の説明と処方箋の内 容から把握ができています。服薬 介助中は飲み込まれるまでしっか りと確認を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している。</p>	<p>床掃除や机拭き等、個々の能力に 応じて役割を担っていただいてい ます。散歩や塗り絵、なぞり絵等 の余暇活動も適宜行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。</p>	<p>頻繁にはないが花見や紅葉狩り 等の行事では、ご家族と一緒に 出かける事ができるよう支援を行 っている。適宜一時帰宅や墓参り など個別のケースも支援させて いただいている。</p>	<p>外の園芸スペースに花や野菜を 植え外に出る目的を作り散歩や 花・畑の世話など楽しんで戸外に 出れる工夫がある。行事での外出 以外にも、買い物など希望を加 味しながら随時行うほか、近隣 のコンビニエンスストアにも車 椅子の方もお連れして出かける 支援をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>家族管理を基本としている。現 在、金銭を普段から所有してお られる方はいないが、日常生活 に用いる範囲であれば自己責任 とはなるが持ち込み可能。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>使用に関してはご本人の残存能力次第ではあるが、携帯電話の持ち込み等について制限は行っていない。希望があれば固定電話を使用していただくことも可能。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節や行事に応じて壁に掲示する物を変えており、作成には一部利用者の方も関わっている。</p>	<p>利用者に支障が生じない程度にテレビやBGMをかけ、ゆっくりできるようにしており、壁面の掲示物も季節ごとの特色を出した作品などにて季節感を感じられる空間となっている。掃除などできる方には手伝ってもらい、役割作りにて自身での生活空間としての認識がもちやすくする取り組みがある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>使用している机の性質上、利用者同士が真正面から向かい合うことはなく、適度な距離感を維持することができている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時に馴染みの家具を持ち込んで頂き、可能な限り在宅時の雰囲気を持ち込めるようにしている。釘を打つ等できないが、ピン止め程度であれば壁を装飾することも可能。</p>	<p>写真をアルバムにして壁面に飾っていたり、利用者の元の生活に近づける意識にて配置など検討もされている。今まで使用していたなじみの調度品なども持参が可能であり、居心地よく過ごせる空間となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>床、手すり等バリアフリー構造であり廊下で歩行練習をすることも出来る。またトイレや浴室にはわかりやすいように大きく表示がされている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい西条

作成日 平成30年10月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員によって認知症(BPSD)への対応と理解度に差がある。	統一したケアの安定的な提供。	法人内研修(法人内全体)及び事業所内研(事業所単体)を活用し理解を深め実践につなげる。	6ヶ月
2	2	地域の行事の把握及び参加が不十分であり接点を持っていない。	地域との関わりを増やし地域の一員として認知されるようになる。	・運営推進会議を通じ地域の行事を把握する。 ・町内清掃や祭りなど地域の行事に参加する。	12ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。